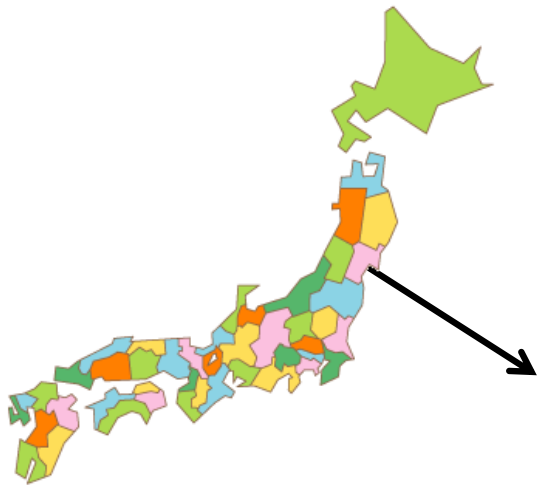


地域運営組織全国セミナー
8/25 青森会場 事例発表

宮城県丸森町筆甫地区 地域運営組織15年の取り組み

宮城県丸森町
一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会
事務局長 吉澤 武志

宮城県丸森町 筆甫（ひっぽ）地区



宮城の南端「丸森町」



福島県につきでる「筆甫地区」

【丸森町】昭和29年に2町6村が合併して誕生⇒8つの旧小学校区

- 人口11,398名（合併当時約29,000人いた人口も70年で60%減少）
- 高齢化率45.46%（宮城県内ワースト1位）

【丸森町筆甫地区】（旧 筆甫村）（数字はR7.6.30現在）

- 標高300～400mの高地に位置
- 町の中心部まで山道を車で25分
- 面積 約74km²（※野球場約5000個分）
- 人口406名（※70年前約3000人,20年前1000人）
- 高齢化率 63.55%
- 中学校はH19.3月閉校、小学校もR4.3.31閉校



丸森町の協働のまちづくり「住民自治組織の設立」

設立までの経緯

- 平成13年度～
町内8地区で『地区別計画』策定
- 平成18年度
町内8地区で「住民自治組織」設立
- 平成19年度～平成21年度
指定管理 移行準備期間（3年間）
- 平成22年度～
各地区の「公民館」を「まちづくりセンター」に改称。住民自治組織が指定管理を開始。地域づくり本格始動。
- 現在 16年目の活動
指定管理5期目（3年毎更新）

※地区別計画一覧

地区別計画…町内各地区の住民と行政で考えて決めた地区の将来像。**地区の歴史や風土、自然等といった特色を活かし、住みよい地域を目指すための計画**

地 区	策定期間	地 区 別 計 画 の ス ロ ー ガ ン
丸 森	H16～17	あぶくまの恵み・太古の歴史
金 山	H14～15	あいうえおの里 金山
筆 甫	H13～14	筆甫地区振興計画 ～自然の恵み、人のつながり、 悠久のふるさと、筆甫～
大 内	H15～16	歴史の里大内
小 斎	H16～17	日本一おいしい米づくりの里 “小斎”
舘 矢 間	H16～17	すくすく いきいき ゆうゆう 「たてやま」
大 張	H14～15	やってみっぺ大張
耕 野	H13～14	耕野元気化計画 ～耕野の自然と歴史と人が調和した 里山づくり～

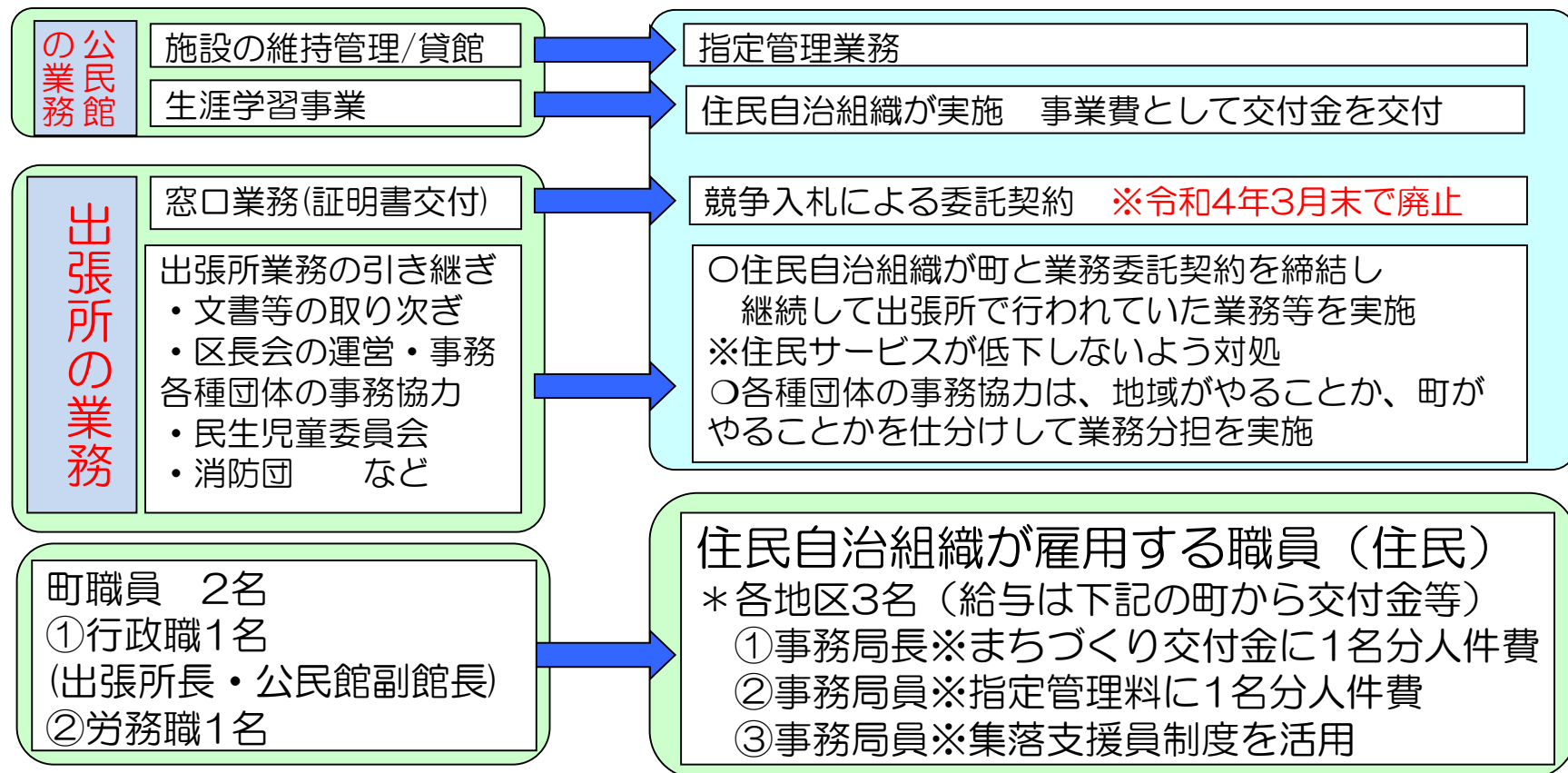
◆住民自治組織の位置づけ

住民自治組織の最大の役割は、より良い地域づくりを実践するための組織

- ・ 地域課題の抽出・合意形成・計画・実践（地区別計画の推進）
- ・ 地域の代表的な団体として 町への要望・提案
- ・ 出張所業務・公民館事業を引継ぐための組織

丸森町の住民自治組織の特徴

「地区別計画の推進」を行う より良い地域づくりを実践するための組織



丸森町筆甫地区の住民自治組織

一社）筆甫地区 振興連絡協議会

◎組織の変遷

- H22.4 指定管理開始（職員3名）
- H23.3 東日本大震災
福島第一原発事故・放射能汚染
- H30.3 一般社団法人の法人格取得
- H30.5 ひっぽのお店ふでいちオープン
- H30.9 移動販売事業開始
ガソリンスタンド事業
- R1.10 令和元年東日本台風

◎組織の体制（地域課題を解決するための協議と実践）

理事会…地域の総合的課題の協議と実践

部 会…部門毎の協議と実践（地域振興＆移住・生活・福祉）

委員会…テーマ毎に委員会を設置し協議（例：お店づくり検討委員会など）

事務局…基本的な事業遂行部隊 10名（まちセン4名 ふでいち4名 SS2名）

組織図・体制図



丸森町筆甫地区の取り組み

◎筆甫公民館の事業を引き継いだ生涯学習事業

○生涯学習講座（○○講座・教室）

○敬老会/運動会/文化祭などの交流行事

○各種団体活動支援（子ども会・老人クラブ・体育協会・婦人会など）



丸森町筆甫地区の取り組み

◎筆甫公民館の事業を引き継いだ生涯学習事業

- 生涯学習講座（○○講座・教室）
- 敬老会/運動会/文化祭などの交流行事
- 各種団体活動支援（子ども会・老人クラブ・体育協会・婦人会など）



講座・交流行事を行うだけでは地域の暮らしは変わらない。
人口も担い手も減っていく。地域課題は増えるばかり。

住民自治組織は

- 自分たちの暮らしにとって必要な事業
- 地域の暮らしを守る事業・攻める事業

をやっていく必要があるのではないか？

丸森町筆甫地区の取り組み

◎筆甫公民館の事業を引き継いだ生涯学習事業

○生涯学習講座（○○講座・教室）

○敬老会/運動会/文化祭などの交流行事

○各種団体活動支援（子ども会・老人クラブ・体育協会・婦人会など）



生活支援

買物弱者

移動弱者

移住事業

耕作放棄地

獣害対策

特産品開発

地域ブランド化

都市農村交流

生涯学習事業をベースにしながら、地域全体を運営・経営していく取り組みに着手

高齢者の暮らし支援・お助け隊

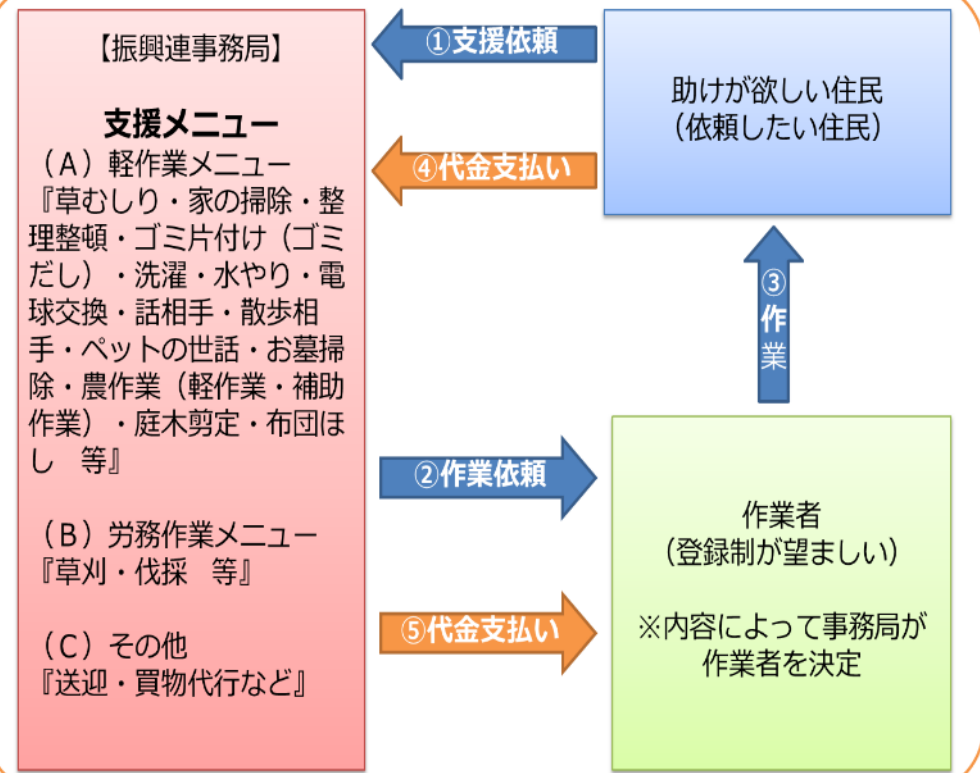
◎高齢者暮らし支援

※高齢化率60%を超える地区で暮らし支援の体制構築

●当初「見守り」活動を地域全体で行っていたが、「見守り」だけでは暮らしは支えられないとの考えから、住民自治組織が困りごと解決の仕組みづくりを構築。

＝これからも地域で暮らしていけるという安心感。顔見知りの住民同士の助け合いによる安心感。

※「お助け隊」の仕組みについては秋田県横手市の雪かきなどの「共助組織」の事例を地区版にカスタマイズして仕組化。



【獣害対策：イノシシ捕獲大作戦】

◎筆甫地区のイノシシ対策

これまで実施した全住民アンケートで常に上位に入る地域課題。獣害対策は「行政の仕事」という考えを一度置いて、「自分たちの課題」として何ができるかを検討

⇒住民自治組織が箱罠を自ら作成し、地区内に20数機設置（設置は免許所持者）。猟友会に「見回り・えさやり・止めさし」などを依頼。箱罠の材料費は自己資金。地域づくりの運営費をもとに経費を支出。

地域の課題を人任せにせず、自分たちの課題としてアクションを実施。

※住民アンケートで課題感の強かった事業を実施することで、地域運営組織とは何のために、誰のために活動する組織なのかを示す。



【高齢者への弁当宅配 サービスの実施】

◎毎週1回お弁当を作成し、希望した高齢者のお宅にお届け（有料）高齢者の方の安否確認や変わったことがないかなど話をすることの重要性。事務局や地区内のボランティアスタッフが配布。



【移動支援 空白地有償運送】

◎免許返納する高齢者の増加に備えて、地区内で有償運送を実施。

令和5年3月末に東北運輸局からの認可。

①地区内の移動支援（1回片道100円）

②丸森町筆甫～福島県相馬市の病院など（1回片道1000円）

※地区と町の中心部は町が運行するデマンドバスで対応



「へそ大根」による地域のブランド化



◎「ひっぽのへそ大根」を通した 特産品開発と地域全体ブランド化

筆甫地区で昔より作られて
きた凍み大根「へそ大根」
を活用した地域ブランド化



- ・農協出荷が中心だったへそ大根
協議会で買い取りと販売
- ・生産方法の一律化
- ・へそ大根づくり体験会
- ・パッケージ作成やレシピ集作成
- ・飲食店へそ大根フェア
クックパッド料理コンテスト
- ・ECサイトでの販路拡大
(右側 QRコード)



へそ大根を守り育てていくことで、生産者のみ
ならず地区全体の魅力の向上に取り組む。



買物弱者対策 & 地域商社機能 「ひっぽのお店ふでいち」



◎ひっぽの「小さな拠点」

- ・平成30年5月20日オープン
 - ・買い物弱者対策 → お店と移動販売
 - ・所得向上 → 直売所・交流スペース
 - ・地域の新たな「顔」をつくる。自分たちの暮らしを自分たちで守り育てるためのチャレンジ。
- ☆アンケートや各種会議において必要性が高まったことから事業化

◎資金調達

店舗部分（総工費）1000万円

- ・町補助金 約280万
- ・住民出資 約220万
- ・クラウドファンディング 300万円
- ・地区外応援資金 約200万円
- ・民間助成金 約300万円

計1300万円程度の資金調達を実施

「ひっぽのお店ふでいち」 移動販売



◎ひっぽの移動販売事業

民間助成金により移動販売車を購入

買い物と見守り

- 平成30年9月からスタート
- 訪問先…地区内にて日中高齢者が家にいる場合はほぼ全世帯を回り、高齢者の方が元気に暮らしているか「安否確認」も同時に実施。何か異変を感じたときは、区長や民生委員に報告をするよう仕組み化。
- 移動販売が地域に浸透
1週間に1回は各地区を回るようにルートを決めているため移動販売は地区内に浸透。住民からの注文なども受けてニーズ対応ができるようになってきた。



ガソリンスタンドの事業承継

◎ガソリンスタンドがなくなったら暮らし続けていけるか？

平成29年に筆甫地区唯一のガソリンスタンドが廃業検討。

⇒地区内で協議を重ね、住民組織が事業を承継することに決定。30年9月より事業開始

- 経営は厳しい状況だが、地域のインフラとして維持できるように取り組んでいる
- 職員2名雇用確保



宮城・丸森 筆甫地区

唯一のGS

住民組織で
守ります

地域で絶海の減少が続く「ガリンスタッドGS」過疎地が全国的問題となる中、宮城県丸森町筆甫では、住民自治組織「筆甫地区環境連絡協議会」が地区で軒をたげるGSを運営している。経営者の社長が自らの高齢化で廃業となるのを避けるため、協議会へ事業承継した。山間地のライフラインを地域一体で守っている。

東北経済産業局調査・熊野 協議会は昨年9月にGS料譲りによる「住民組織」の運営を始めた。元は「GS」譲りによる全国的に「地産店」社長引退が人々多いため、東北では「初め」といふ。筆甫地区の生活は、元

使う軽油が販売の主。冬の灯油販売も手厚く、引地さん（従業員）へ運営している。

引地さんは協議会の会長を務める。GSの譲り者はおらず、一昨年、いつまで会社を続けられるか分からない。廃業となれば客に迷惑が掛かる。と協議会へ事業承継を提案した。

筆甫地区から町中心部までは、山あいの道を走って約10分。町民バスが約型乗り合いタクシーも運行しているが、本数や時間帯

経営者高齢化、事業引き継ぐ
ライフライン 安心確保

ルートが限られる。筆甫地区は最も近いにも町中心部である。

協議会の高沢武事務局長42は「スタッドがなければ、筆甫での生活が成り立たない」と事業承継を受けたいと訴える。

協議会が昨年9月、住民の生活環境として、日用品や農産物などを販売を再開した。これに伴い組織を一般法人化した。GSの運営にも乗り出した。土地・建物借り受け、従業員はそのまま雇用。引地さんもGSで業務を続ける。

近い風である。筆甫地区では昨年、太陽エネルギーの建設を始めた。協議会のGSが工事現場へ使う軽油の軽油を配給している。引地さんは「経営安定の懸念、譲り渡した」と胸をなやます。

15年前まで1000人を、事務局長は「スタッドの確保をいた筆甫地区の人口は3月末現在で500人。た。暮らしのためにできる高齢化率は52・3%と高い。過疎化は甚だが、真実、振りたい」と話している。

協議会事業承継された、筆甫の引地さん（左）が、筆甫地区の中心部へ

【外部団体の創出・連携】

①廃校活用しディサービスを行うNPO法人



◎地区住民有志でNPO法人設立

住民自治組織による廃校利用の検討から誕生
→地区住民有志がNPOを設立し「ディサービス」を開始。一時は町保育所が廃止になったことを受け「家庭的保育事業」にも取り組んだ。

②再工ネ村構想を掲げる地域エネルギー事業株式会社



◎筆甫地区を再工ネ村に！

住民自治組織「委員会」から誕生した株式会社。
→低圧太陽光発電を住民＋支援者出資で設置。売電した収入は必要経費を除き地域事業に還元する。地域に雇用と新たな魅力を生み出す

③移住してきた若者たちによる一般社団法人



◎移住してきた若者たちの活動

地域おこし協力隊などを活用して移住してきた若者がグループをつくり一般社団法人を設立。丸森町から旧保育所を借りて、宿泊＆住民交流施設に。

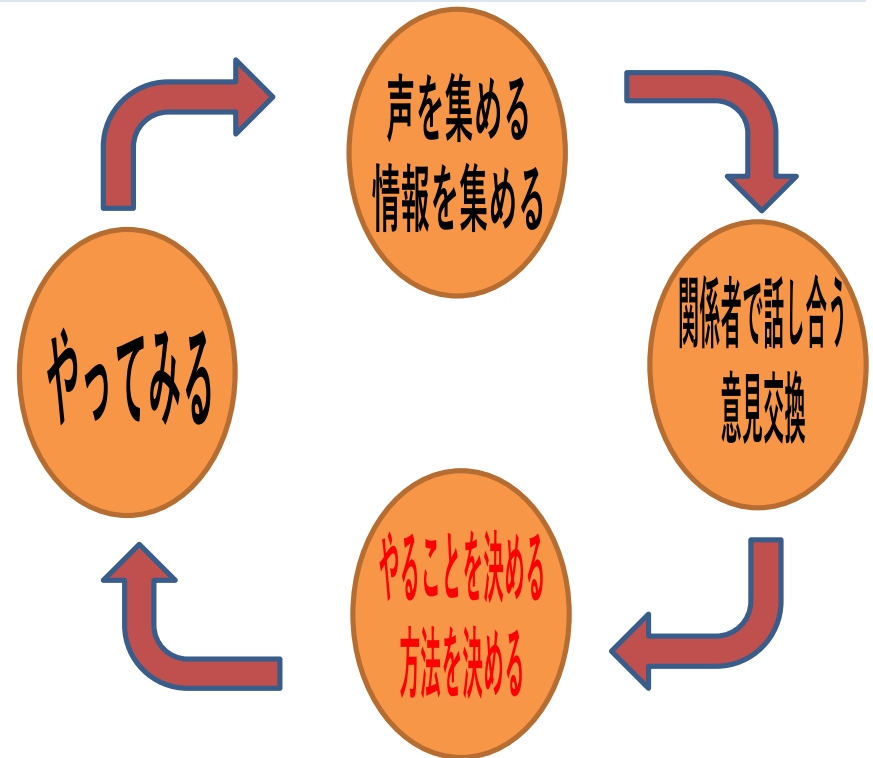
地域住民の暮らしにとって意義ある事業を どう生み出していくか

- ・ 地域を集める
* 様々な集まり・場所で
地域の課題（話題）が
出る空気づくり
* 住民アンケート

- ・ 協議の場はあるか？
+ 決定する場があるか？

- ・ やることを決める。方法を決める。

- ・ やってみる。ダメならやり直す。



住民自治組織が成長していくために

住民自治組織の存在・意義を周知し続ける

- 「住民自治組織組織とは何か」を住民に発信
- やらなくてはいけないことにしっかり取り組む

⇒何をする組織かわからない組織では、住民からの協力はもらえない。常に住民自治組織とは何なのかを情報や行動を通して伝え続ける

チャレンジを通し、地域の経験値をあげる

- できることから取り組む。できない理由より実行あるのみ。
- やってみてうまくいかないところは修正・軌道修正。

⇒地域課題へチャレンジし続けることが、小さな成功体験と地域の経験値を増やす。その繰り返しハードルの高いチャレンジへと続く。

令和元年東日本台風（令和元年10月12日） 筆甫地区に降った雨 600mm



【川沿いの県道の道路が崩壊】



【アスファルトがえぐれて通行不可】



【落石による車の通行不可】



【倒木と土砂崩れが各地で発生】

道路だけでなく、家屋・田畑等も甚大な被害 地域は孤立し 陸の孤島に



【土砂崩れで家屋内に土砂流入】



【土砂に押されて家屋倒壊】



【土砂と水の力で流された家屋】



【地区外へ通じる道が全て通行不可】

地区住民が自ら動き、災害対応を展開 災害直後から起きた自発的な災害対応



【消防団と地域運営組織連携】



【消防団が道を切り拓く】



【女性組織による炊き出し活動】



【助けあいによる避難所運営】

地域で話し合い、 自分たちで何ができるかを考える



【地区内関係者連携会議開催】



【聞き取りによる全戸調査の実施】



【孤立する高齢者世帯へ物資お届け】



【高齢者宅へ薬を手配しお届け】

地域内のあらゆる機能を動員 若い世代の住民も自分のできることを実施



【停電の中でも地域の店をあける】



【移動販売車による物資搬送と見守り】



【小中学生もできることに取り組む】



【地域の若者世代による1人暮らし支援】